

交流ひろば

華僑の口述記録を残す取り組みについて 友の会会員・神阪京華僑口述記録研究会代表 呉 宏明

みなさまにご紹介したい書物が2冊あります。

①『南京町と神戸華僑』

呉宏明・高橋晋一編、松籟社、2015年
神戸の南京町の歴史と全体像を理解する上で、南京町を訪れる観光客および神戸の方々に読んでいただきたい本です。

②『日本統治下台湾の教育認識 ~ 書房・公学校を中心に』

呉宏明著、春風社、2016年
これは私が今まで研究してきた台湾の伝統的な初等教育機関の書房と日本の植民地下の台湾人児童を対象とした公学校をまとめたものです。

神戸華僑歴史博物館の活動の一環として関西在住の華僑の聞き書きを残す取り組みを始めたのは2007年。1月に開催された第1回シンポジウム「華僑の口述記録を残す為に~その意味と方法」が契機となり、同年4月に口述記録研究会が発足しました。その後、毎年行われ、計13回実施し、華僑のライフヒストリーをインタビューをもとに体系的・継続的に記録を残すことを目的としてきました。特に老華僑を中心に、異国の地で多くの困難を乗り越え、たくましく、前向きに力強く、また地域の方々との関係を大事にして生きてきた足跡を話し言葉を忠実に記録しました。

2020年3月時点で、計50名の華僑の聞き取りをしました。内訳は男性40名、女性10名。大半が60歳以上で、出身地は福建省、広東省、台湾、江蘇省、浙江省が多くを占めています。聞き取りの記録はできるだけ話し言葉を忠実にテープ起こしをしています。インタビューは自宅、または博物館、その他の華僑施設で行いますが、シンポジウムや研究会では、公開インタビューを行い、参加者の質疑応答も記録するように心がけております。また、聞き取りをした際の音声記録や映像記録を今後の課題として、神戸華僑博物館に管理・保存したいと望んでいます。

本研究会のメンバーは広く市民に開かれており、中学・高校生から年配の方々まで、だれでも参加できるような雰囲気づくりを目指しています。研究会は、神戸華僑歴史博物館のある建物の10階にある神戸中華総商會会議室にて基本的には毎月第1土曜日に開かれております。中国、または華僑に関する発表をもとに、老華僑にインタビューする際の基礎知識を学び、また、時折華僑をゲストに迎え、公開インタビューを

実施しております。
今後の取り組みとして、今までの記録を何とか一冊の本にまとめ、華僑の若い世代及び一般の方々に華僑の生きた記録を紹介できることを企画しています。2018年、後藤みなみさんの聞き取りがご縁で口述記録研究会に入会され、一緒に活動しています。昨年、口述研究会からも5名が友の会に入会し、華僑のつながりで相互に交流を深めることができました。

『聞き書き・関西華僑のライフヒストリー』第10号を紹介しておきます。

2008年12月に最初の号を発行してから、今年は第10号を出版できることになりました。今回は5人のインタビュー記録を収録しております。

- (1) 鮑初悦氏：(広東省出身) 廣記商行取締役会長、中華総商會会長
- (2) 盧志鴻氏：(浙江省出身) 炳昌取締役会長、三江會館理事長
- (3) 王士畏氏：(河北省出身) 大阪華僑総会理事、大阪中華北幫公所監事
- (4) 蔡勝昌氏：(台湾出身) 神戸華僑歴史博物館館長
- (5) 湛澤綸氏：(広東省出身) 聯発行有限公司代表取締役、獅子舞の伝承者

以上の5名の聞き書き以外には、会員の「ライフヒストリー」に寄せる思いを綴ったエッセー、華僑に関する論文「川口華僑と奉天」と「日中戦争下の華僑の暮らし」を収録していますので、お読みいただければ幸いです。

【購入先：神戸華僑歴史博物館 (Tel.078-331-3855) 第10号：1冊1000円】



フィールド・トリップで大阪四天王寺の関帝廟を訪問。隆琦(おもき)住職のお話を聞く。



第10号の表紙製作【写真・デザイン】および本文レイアウト：竹井俊隆

交流ひろば

「陳舜臣さんを語る会通信」の発行にあたって 移情閣友の会 橘 雄三

●心の師、陳舜臣さん

私が陳舜臣さんとはじめてお話したのは2003年。兵庫文学館の企画で、移情閣3階を会場に陳舜臣氏と玉岡かおる氏の対談が行われたときのことです。

当時、私は財団法人孫中山記念会の職員として孫文記念館(移情閣)に勤めていました。両氏と陳舜臣夫人を案内し、応接室でほんの少し話をしたことを覚えています。私は陳氏を心の中ではいつも、「陳舜臣さん」と「さん」付けて呼んでいます。氏の中国物は、私の青春時代から中年にかけて、「人生の手引書」でした。『中国歴史の旅』や『太平天国』などをガイドに、中国各地をよく旅行しました。そのお礼を言ったように記憶しています。

●「陳舜臣さんを語る会通信」の発行にあたって

山田敬三先生が主宰されている神戸舞子学院の「みんなで読もう陳舜臣」の会が、まる3年経ち、月一の例会の都度、作成した資料が溜まってきました。コロナ籠もりのつれづれに、これらをまとめ、「陳舜臣さんを語る会通信」として発行しはじめ、第13号まで来ました。

著作権の問題があり、いまのところ、ネット上に公開することはできません。バックナンバーを綴じ、友の会企画運営委員長 後藤みなみ氏にお渡ししていますので、機会を見つけ、ご高覧いただければ幸いです。

●来年一月、ぜひ、桃源忌の開催を

陳舜臣さんの命日(1月21日)桃源忌が、ここ数年、

開催されていないように思います。来年は、友の会主催で、是非、開催してほしいものです。



「陳舜臣さんを語る会通信」バックナンバー一覧	
号	主要記事
1	「陳舜臣さん 台湾・大陸 旅の記録」
2	『中国傑物伝』登場人物16人を紹介します 野嶋剛『タイムワーカー 故郷喪失者の物語』
3	終戦直後の台湾社会が舞台『怒りの青島』
4	そうは問屋が卸さなかった『太平天国』
5	舞子浜の呉邸を舞台に呉錦堂・孫文が登場する『因入の斧』 陳舜臣さんの妹、妙令さんのこと
6	陳舜臣さんの強い思い入れ『那律楚材』 『太平天国』取材旅行一柱平、金田村へー
7	神龍へのやさしい眼差し『琉球の風』
8	『青山一豊(せいざん)いっばつ』
9	中国王朝興亡の源流をたどるエッセー集『龍風のくに』
10	司馬遼太郎『街道をゆく 25(関のまち)』に登場する陳舜臣さん
11	陳舜臣 中国歴史小説の本職をなす作品『山河在り』 陳さんの中国歴史小説 架空の登場人物「連家・温家系図」
12	陳舜臣文学の白眉『桃源郷』
13	「できれば学問の周辺にいたい」と願った家業10年 職場「華安公司」と最後の住居「オーキッドコート」

みんなで読もう陳舜臣

毎月第4土曜日の午後3時から陳舜臣氏の作品を購読しています。会場は JR 舞子駅から西南へ徒歩5分。国道2号線沿いの南側にある神戸舞子学院。毎回、参加者が各自の選んだ作品を輪番で担当します。「陳舜臣アジア文芸館」の橘雄三や大和齊、土井敏郎など元・孫文記念館の関係者が資料を提供、山田敬三(神戸大学名誉教授)が助言しています。会費は半年1,800円。

これまでに『阿片戦争』や『琉球の風』『中国詩人伝』『儒教三千年』『妖のある話』『山河在り』などいくつかの作品を取り上げてきましたが、陳氏の作品はたくさんありますので、当分、種切れになることはありません。陳舜臣氏の作品に興味をお持ちの方は気軽に参加下さい。

移情閣友の会顧問 山田 敬三

台湾出身の作者は大阪外国語学校でインド語を専攻、戦後は一時、故国に帰って英語の教師などをされていましたが、その該博な知識に基づく作品には大衆文学の領域を超える壮大なスケールと含蓄があります。いつか機会を見て、その作品の後を訪ねる旅を皆さんと一緒にしたいと考えています。

読書会への参加を希望される方は学院宛てにお電話下さい(078-955-7016)。事務局員不在の場合にはご連絡先を留守番電話に録音下されば、後日、テキストとその入手方法をご連絡します。以下のアドレスにメールを下さっても結構です。
maikogakuin@hyogo.zaq.jp (山田敬三)